

平成28年2月15日

狭山市教育委員会
教育長 松本 晴夫 様

狭山市立入間野小学校
校長 小俣 恵美子

平成27年度 狭山市立入間野小学校自己評価書

1 本年度の重点目標

- (1) 学校課題研究 国語「学び合い、読む力を高め合う児童の育成」の実践
- (2) 知識・技能の確実な習得と活用する力の育成
- (3) 運動の日常化と進んで運動する児童の育成
- (4) よりよい人間関係を築き、協力し自主的に活動する児童の育成
- (5) 積極的な学校応援団・SSVCの活用による教育活動の充実
- (6) 安心・安全な学校づくりの推進
- (7) 職員室の美化と美しい言葉づかいによる教育環境の整備
- (8) 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の推進
- (9) 教職員の人材育成

2 本年度の経営方針

教職員一丸となって、児童一人一人と集団をよりよく変容させ、学校への信頼を得る

3 自己評価結果

【評価の目安】 A：よくできている(90%) B：概ねできている(75%) C：あまりできていない(60%) D：できていない(60%未満)

項目	観 点	達成状況	改 善 の 方 策	
	1 学校教育目標 (知・徳・体の調和のとれた児童の育成)		「考える子」については、見直しの仕方や丁寧な文字指導を引き続き実施し、事前に時間を明示して、粘り強くテストや学習に取り組ませていく。	
1	「仲よくする子」は具現化できたか。(目を見て挨拶、「オアシスこ」が言える、集団のために考え行動できる。)	B		
2	「考える子」は具現化できたか。(届く声で話す、文字を丁寧に書く、進んで家庭学習や読書に取り組む。)	C		
3	「やりぬく子」は具現化できたか。(あきらめず時間いっぱい取り組む、進んで運動する、危機管理能力を身に付ける。)	B		
	2 教育課程 (学力向上プランの推進)		計画的に国語タイムと算数タイムを実施できた。習熟の程度に応じた算数科の指導は、効果を上げている。 国語科の学校課題研究への取り組みが、読書量を確保し、増加させている。 校内研修を生かし、ICTの活用は、本年度飛躍的に増加した。デジタル教科書の効果的な活用がなされている。今後書画カメラも利用する。 学習課題の明示はできているが、児童の言葉によるまとめは、時間の確保が必要で、時間が不足となりがちであり、考慮を要する。 問題解決的学習過程では、自分の考えを書かせてから学び合いに入るようにしていく。 学校独自の「家庭学習の手引き」は、保護者用・児童用を作成し、来年度実施する。	
4	確実に補充を行う国語タイムと算数タイムに取り組むことができたか。	B		
5	習熟の程度に応じた算数科の少人数指導はできたか。	B		
6	下敷きと消しゴムを使用したノート指導はできたか。	B		
7	「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣化はできたか。	C		
8	正しい姿勢と返事の仕方、統一した号令はできたか。	B		
9	見直しの仕方を身につけ、時間いっぱいテストに取り組む態度を育成できたか。	C		
10	問題解決的な学習過程はできたか。	C		
11	学習のめあての明示と児童のこぼれによるまとめはできたか。	C		
12	単元を貫く「言語活動」による国語科指導はできたか。	B		
13	ICTを効果的に活用した授業はできたか。	B		
14	並行読書や家庭学習の習慣化により、2週間に1冊以上本を読むことができたか。	B		
	3 道徳教育(豊かな心の育成プランの推進)			校内夏季研修に、指導者を招聘し、ねらいとする価値を高める、ぶれのない指導方法を研修した。この指導方法を生かして指導している。 本年度中に、指導の重点を協議し、指導計画に盛り込む。
15	全体計画を理解し、全教育活動を通して道徳教育を実践できたか。	B		
16	道徳の時間が児童の実態把握に基づき、計画的に実践できたか。	C		
17	ねらいとする価値を高める道徳の授業が実践できたか。	B		
	4 生徒指導(豊かな心の育成プランの推進)		一貫した生徒指導を組織的に行い、規律ある態度の確立が同一歩調でなされている。個別の支援や対応が必要な児童に対して、教職員が共通理解し、早期に面談・協議・検討し、関係機関とも連携した対応ができていく。清掃指導についても、引き続き同一歩調で指導していく。	
18	講話朝会と学校のきまりによる一貫した生徒指導ができたか。	B		
19	校長講話から発達段階に応じ、学年・学級への指導ができたか。	B		
20	児童の実態の共通理解と時機を逃さない教育相談や就学相談、ケース会議ができたか。	B		
21	「時間いっぱいもくもくくびかびか」を合言葉にした清掃指導ができたか。	B		
	5 交流教育(豊かな心の育成プランの推進)		異年齢での交流活動を始め、本年度新たに、異校種間で交流活動ができた。今後は、より意義を高めた内容や活動にしていく。	
22	様々な交流活動を通して、体験的に学ぶ学習活動の充実はできたか。	B		
23	異年齢集団による効果的な交流活動はできたか。	B		

	6 特別活動(豊かな心への育成プランの推進)		校内夏季研修で学んだことや、校内で統一して作成した学級会グッズを利用して、今後も指導を充実させていく。
24	「指導の目安」に基づく段階的な学活(1)の指導はできたか。	B	
25	学級経営案の「学級における指導計画」に基づき、学級活動は計画的に行うことができたか。	B	
26	児童会活動やクラブ活動は計画的に実施され、児童の自主的・実践的な態度が育成できたか。	B	
27	学校行事は適切に実施することができたか。	A	
	7 体力向上の維持増進(体力向上プランの推進)		体育部で、朝マラソンについて、児童が意欲的に取り組む指導方法を提案し、全校で取り組んでいく。体力テストの結果は、健康手帳に貼りつけ、自己目標を立てやすいように工夫する。
28	基礎基本を確実に定着させた、より楽しい体育の授業づくりができたか。	B	
29	進んで運動に親しませるための朝マラソンの取組ができたか。	B	
	8 保健健康安全(体力向上プランの推進)		一斉下校の時の混雑しない下校の仕方を検討したり、第2避難経路を使用した避難訓練を実施したりする。
30	健康・安全についての理解が深まり、習慣化されるように指導できたか。	B	
31	保健目標を意識した健康指導ができたか。	B	
32	交通安全指導は、継続的・効果的に実施することができたか。	B	
33	避難、引取り、AEDを使用した訓練を実施し、確認した行動がとれるようになったか。	B	
	9 学年・学級経営		学年会を、報告・連絡・相談だけでなく、指導方法の研修の場として資質向上を図ることができた。集団生活の楽しさを味わわせる学級経営を更に心掛ける。
34	学校・学年・学級経営の方針に基づき一貫性のある経営ができたか。	B	
35	意図的・計画的に学年・学級経営を進めることができたか。	B	
36	児童の自己実現を図る場を多く設定することができたか。	B	
37	いじめや差別のない学級づくりと人権教育はできたか。	B	
38	教室環境の整備に努力ができたか。	B	
	10 校内研修など		学校課題研究1年目であり、「単元を貫く言語活動」の指導方法にとにかく取り組んでみた。今後、ブロックや専門部の成果と課題を共有し、推進委員会で来年度の方向性を明らかに、研究発表へ向け、検証を進めていく。
39	学校課題研究国語「学び合い、詠む力を高める児童の育成」を目指して取り組むことができたか。	B	
40	研究組織や進め方は研究内容に応じて合理的・機能的にできたか。	B	
41	研究内容を日々の指導の中に生かし、自己の研鑽に努めることができたか。	B	
	11 職務遂行・服務(目指す教師へむけて)		報告・連絡・相談が良くできている。 職場で声を掛け合い、毎朝、出勤簿に捺印して職務遂行できるよう、余裕をもって勤めるようにする。
42	意欲的に職務に取り組むことができたか。	B	
43	報告・連絡・相談はしっかりできたか。	B	
44	教育公務員としての自覚を持ち、公務員倫理のもと、服務の厳正に努めることができたか。	B	
45	ゆとりをもった出勤ができたか。(出勤簿への捺印を含む)	B	
46	服装、言葉遣い、挨拶等は適切にできたか。	B	
47	出張や研修の報告は速やかに行うことができたか。	B	
48	組織の一員としての自覚に基づき、一人一人の責任を果たすことができたか。	B	
49	自己の健康管理はできたか。	B	
	12 環境、施設設備		
50	校舎内外の施設設備の整理整頓、修繕は適切にできたか。	B	
51	清掃用具の片付けはしっかりできたか。	B	
52	教育効果を高める掲示ができたか。(学級・学年・特別教室など)	B	
53	安全点検・対応は適切にできたか。(担任→学年→安全部→管理職)	B	
54	美しい言語環境の推進はできたか。(対児童・保護者・来校者)	B	
55	職員室の共有スペースや、ロッカー、机上の整理整頓はできたか。	B	
	13 家庭・地域との連携		本年度、保育園との交流活動や工業高校との交流活動が新たに実施できた。来年度も継続して実施していくが、意義深いものに、更に高めていく。 学校応援団の紹介や感謝会が本年度新たに実施できた。学校応援団の協力の下、サマースクールでも実施できた。来年度早めに計画していく。
56	保護者、PTAと協力ができたか。	B	
57	保護者・地域・学校応援団の力を生かすことができたか。(ボランティア年間計画の実施等)	B	
58	保育園・幼稚園、中学校、高校、公民館や図書館などとの連携はできたか。	B	
	14 学校事務		本年度、新しい会計簿や報告のファイリングシステムを確立し、多くの目で確認することができた。今後、情報の管理についても、校内規定を確実に遵守していくようにする。
59	現金の取り扱いは細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理できたか。	B	
60	情報の管理は適切にできたか。	B	